

【秋田県大仙市】  
大曲エンパイヤホテル

稼働率の高い宴会場にエコ・アイスを採用。  
ランニングコスト削減による経済性と  
きめ細かな温度調節による  
快適性を両立させました。



オーナーの視点

メンテナンス代、灯油代を大幅に削減。  
室内機ごとのきめ細かな温度調節で、  
快適さも格段に向上。

秋

田県の県南部に位置し、毎年8月に開催される全国花火競技大会で有名な大仙市大曲。秋田新幹線大曲駅のほど近くに建つシティ型ホテル、それが大曲エンパイヤホテルだ。1階にフロントやレストラン、2階に宴会場、3・4階に客室を配し、特に宴会場は、最大730名(着席)で利用可能な県南エリア随一の規模を誇る。大曲エンパイヤホテルでは、2010年に宴会場部分の空調設備のリニューアルを実施。従来の吸収式冷温水発生機から、エコ・アイス(氷蓄熱式空調システム)へと設備を更新した。その経緯を同ホテル支配人の小松典彦氏はこう説明する。「1985年の開業以来、灯油焚きによる吸収式冷温水発生機2台で空調を行ってききましたが、設備が老朽化し能力もかなりダウンしていました。2台のうち1台が宴会場用であり、稼働率の高い宴会場部分の空調システムをまずリニューアルすることにしました」。

同

ホテルでは、新たな空調熱源として、割安な夜間電力を利用して夏は氷、冬は温水を作り、その熱エネルギーを昼間利用するエコ・アイスを採用。秋田県の「民間施設省エネ・グリーン化推進事業費補助金」による助成も活用し、リニューアルを実施したという。「吸収式冷温水発生機の場合、冷房から暖房、暖房から冷房への切り替え時期の判断とそれに必要となる多大な経費が悩みの種でした。エコ・アイス



大曲エンパイヤホテル  
営業部支配人  
小松 典彦氏  
Norihiko Komatsu



の導入により、切り替えにかかるメンテナンス代が削減された上、灯油代の削減額も年間80万円を超え、大きな効果を生んでいます。当ホテルの宴会場は全体をスライディングウォールで3つに仕切って使用することができ、更新後は仕切った会場ごとに室内機が設けられ、室内機ごとのきめ細かな温度調節が可能になりました。宴会場は人の入りが多いと、冬でも冷房を入れて欲しいというお客さまの声をいただきます。そのご要望にお答えできるようになったことも、非常に大きなメリットだと感じています」。

導入によるECO効果

冷房熱源エネルギー消費量 38%減  
冷房熱源CO<sub>2</sub>排出量 47%減

※東北電力試算(原油換算による。CO<sub>2</sub>排出量は、2011年度実績による調整後CO<sub>2</sub>排出原単位を使用)

〔施設概要〕  
建物の延床面積：約3,636.54㎡  
建物の階数：地上4階  
建物の構造：鉄筋コンクリート造  
所在地：秋田県大仙市大曲白金町8-17